

Bruckner

# 樋口隆一 指揮

Ryuichi Higuchi, conductor.

## 明治学院バッハ・アカデミー合唱団

Bach Aakademie Meiji Gakuin Tokyo

## +N響団友オーケストラ

NHK Symphony Danyu Orchestra

## シューマンとブルックナー

Robert Schumann & Anton Bruckner

### 2026年8月9日(日)

19:00開演(18:30開場)

Sunday, 9 August, 2026 at 19:00

### 会場: サントリーホール

Suntory Hall, Tokyo

Schumann

#### 予定プログラム

シューマン

Robert Schumann

ピアノ協奏曲イ短調 Op.54

Concerto for Piano and Orchestra in A minor

ブルックナー

Anton Bruckner

ミサ曲第3番へ短調 WAB28

Mass No.3 in F minor WAB28



樋口紀美子(ピアノ)



樋口隆一(指揮)



明治学院バッハ・アカデミー合唱団、N響団友オーケストラ



富永美樹  
(ソプラノ)



庄司祐美  
(メゾ・ソプラノ)



高野二郎  
(テノール)



土田悠平  
(バリトン)

#### 発売日

2026年3月7日(土) 10:00~

#### 入場料(各税込)

全指定席

S席 ¥7,000 A席 ¥6,000 B席 ¥4,000 学生 ¥2,000

※学生券(¥2,000)をご購入いただきましたお客様は当日学生証をご提示ください。

#### チケット 取り扱い

■チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード:322-312)

■サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 <https://suntory.jp/HALL/>

主催:明治学院バッハ・アカデミー <http://bachakademie.web.fc2.com/>

後援:公益財団法人日独協会、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)、一般財団法人樋口季一郎中将顕彰会、日本アルバン・ベルク協会、音楽三田会

お問合せ:株式会社AMATI Tel.03-3560-3010 〒107-0052 東京都港区赤坂1-14-5-S103 <https://www.amati-tokyo.com/>

次のことをあらかじめご承知の上、  
チケットをお買い求め下さい。

①やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。②いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。③演奏中は入場できません。④未就学児の同伴はご遠慮下さい。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚のチケットが必要です。⑤全指定席です。指定の座席にてご鑑賞下さい。⑥場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑦ネットオークション等によるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。⑧他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

## ライブツィヒ・バッハ音楽祭とウィーン・ドミナーナ教会で大成功を取めた

### 樋口隆一指揮明治学院バッハ・アカデミー合唱団。

今回は、シューマンの「ピアノ協奏曲 イ短調」とブルックナーの「ミサ曲第3番 ヘ短調」をN響団友オーケストラと演奏。

ライブツィヒとウィーンゆかりのロマン派音楽の神髄です。

#### 樋口隆一〔指揮〕

1946年、東京生まれ。音楽学者・指揮者。慶應義塾大学文学部卒、同大学院博士課程中退。ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生としてドイツ留学。バッハのカンタータの研究(『新バッハ全集』1/34)でチュービンゲン大学哲学博士。A.スムスキーに指揮法を師事し、シュトゥットガルト聖母マリア教会で合唱指揮者を務めた。帰国後、音楽学者、指揮者、評論家として活動。ミハエル・ギーレン、若杉弘の助言を得て、1994年、指揮活動を再開。2000年、明治学院バッハ・アカデミーを設立。2010年までは明治学院チャペル、その後はサントリーホール、紀尾井ホールを中心に宗教音楽の傑作を次々に上演。『バッハ』(新潮文庫)、『バッハ・カンタータ研究』(音楽之友社)、アーノンクール著『古楽とは何か』(共訳、音楽之友社)、ノヴァーク著『ブルックナー研究』(ほか著訳書多数。バッハ《マタイ受難曲・後期稿》、ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》、(ユニバーサルミュージック)、フォーレ《レクイエム》(オクタヴィア・レコード)等のCDも話題を呼んでいる。現在、明治学院大学名誉教授。日本アルバン・ベルク協会、音楽三田会、一般財団法人樋口季一郎中将顕彰会会長。1988年、京都音楽賞、1989年、辻荘一賞受賞。2002年、オーストリア学術芸術功労十字章受章。2015年、ドイツから第2回テオドル・ベルヒウム賞を受賞した。

#### 樋口紀美子〔ピアノ、樋口隆一の妹〕

藤田晴子、田辺緑、岡部守弘、永井進、神西敦子、K.ヘルヴィッヒ、H.エリーベンザーム、G.アゴ스티ー、H.C.ステファンスカ、W.ブランケンハイム、ディノラ・ヴァルジの各氏に師事。1974年渡独。エッセン国立音楽大学、ベルリン芸術大学、ザールブリュッケン国立音楽大学演奏家コース卒業。1977年、イタリアのフィナーレ・リグレ国際ピアノコンクール3位入賞。1980年、ルガノ国際ピアノコンクール「スケルツォ特別賞」。1981年より一時帰国して東京で15回のピアノリサイタル開催。「音楽芸術」「音楽の友」「ムジカノーヴァ」「ショパン」各誌で高い評価を得る。1985年東京交響楽団とラフマニノフの協奏曲第2番を共演。1993年10月にはマーラー《大地の歌》ピアノ版を邦人ステージ初演。1988年よりベルリンのフィルハーモニー、カンマームジークザールを中心に9回のリサイタル(ハンス・アードラー主催)で成功を収め、ベルリン・ピアノ界の常連としての地位を確立。ベルリン最大有力紙「デア・ターゲス・シュピーゲル」で「微笑む理性」と絶賛された。2005年よりドイツ音楽芸術家連盟ベルリン正会員。2007年7月、33年のドイツ滞在を終えて帰国。オーケストラとの共演、日本各地でコンクールの審査、講演、公開レッスン、演奏活動を活発に展開している。ピアノ教育者としては、ドイツ青少年コンクール、ベルリンとハンブルグのスタインウェイ・ピアノコンクール、ケーテンのバッハ・ピアノコンクールなどで常に上位入賞者、オーケストラとの再度に渡る共演者を出すなど異例の成功を取めた。ベルリン教会音楽大学ピアノ科講師、ベルリン市立音楽学校ピアノ科および室内楽科講師などを歴任。昭和音楽大学・大学院講師。一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)正会員。ピティナ・ピアノコンペティション、ベルリン・スタインウェイ・ピアノコンクール審査員。

#### 富永美樹〔ソプラノ〕

雙葉高校からAFS留学制度で米国留学、現地の私立高校を卒業。慶応義塾大学法学部卒業。銀行勤務の後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院イヴニングディヴィジョンで声楽を学ぶ。ジョイス・マクリン氏に師事。2010年に《パルジファル》花の乙女Iでオペラデビュー。その後、《魔笛》夜の女王、《椿姫》ヴィオレッタ、《リゴレット》ジルダ、《フィガロの結婚》スザンナ、《コジ・ファン・トゥッテ》フィオルディリージ、《カルメン》ミカエラ、《ドン・ジョヴァンニ》ツェルリーナ、《後宮からの誘拐》ブロンデ、《劇場支配人》ジルバークラング、《こうもり》アデーレ、《電話》ルーシーほか、リリック・コロラトゥーラソプラノとして多数のオペラに出演。2014年、ムジカーザにて「華麗なるバロックの夕べ」を主催。2024年9月、Hakuju Hallでのソロリサイタルは『音楽の友』で絶賛を博す。東京室内歌劇場会員。

#### 庄司祐美〔メゾ・ソプラノ〕

4歳よりピアノに親しむ。女子学院中学・高等学校で聖歌隊に所属。慶應義塾大学文学部心理専攻卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学、同大学院独唱科博士後期課程修了。大学院在学中に藝大定期演奏会メンデルスゾーン《エアラ》(ゲルハルト・ボッセ指揮)ソリスト。シュトゥットガルト音楽大学のバッハ週間カンタータ解説演奏会、演出付《ヨハネ受難曲》、シャリーノ《ガラスの下の声》ソリスト。マックス・レーガーの歌曲演奏はSWRで放送された。帰国後は二期会《ジュリアス・シーザー》、《ワルキューレ》、二期会week in サントリーホール、オーチャードホール開館20周年記念ワーグナー・ガラコンサートや《第9》、マラー《復活》、《大地の歌》に出演。2006年以来定期的にリサイタルを開催。その後も渡欧し、ペーター・シュライアー、ブリギッテ・ファスベンダー各氏のマスタークラスに参加。2010年ドイツ、ボンでのシューマン生誕200年記念リサイタルは現地新聞紙上に好評を得る。二期会会員。日本演奏連盟会員。

#### 高野二郎〔テノール〕

品川音楽文化協会会長。洗足学園音楽大学、昭和音楽大学、桐朋学園芸術短期大学各講師。二期会会員。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2009年、男声オペラ歌手グループ“The JADE”(ザ・ジェイド)メンバーとしてアルバム「手紙」でメジャーデビュー(EMIミュージック)。1stシングル「クジラのあくび」がNHKみんなの歌で放送される。オペラソリストとして2000年「魔笛」タミーノ王子役で新国立劇場デビュー。以降現在まで数々の新国立劇場、日生劇場等の主催公演に出演。テノールソリストとして新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団等主要オーケストラとコンサートで共演。NHKニューイヤーパーラコンサート、NHK歌謡コンサート、題名のない音楽会等にテレビ出演。クラシック音楽以外では東宝ミュージカル「レ・ミゼラブル」(オリジナル演出版、新演出版)に出演。劇団四季「美女と野獣」等の公演に携わる。井口昇監督作品「電人ザボーガー」、山田洋次監督作品「母と暮せば」等の劇場映画の主題歌、挿入歌を歌唱。また特撮ヒーロー作

品の主題歌を歌い「平成の子門真人」を標榜する等クロスオーバー歌手として幅広く活動中。ソロアルバム「エッセンス」、「マイ・ウェイ」、「Love Letter」をリリース。

#### 土田悠平〔バリトン〕

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に同声会新人賞を受賞。卒業後、ウィーン・ブライナー音楽院へ3年間留学。ブクステフデ《われらがイエスの四肢》でソリストデビューし好評を博す。ドイツ歌曲、宗教曲を得意とする。小澤征爾、ジョン・ミュンフン、シャルル・デュワ氏ら指揮のもと、数々のオペラや演奏会に出演。アルメニア国主催の音楽祭に招致され、大臣より賞状や感謝状を受けるなど好評を博す。ソロリサイタル“Lieder Einladung”を7回開催。ウィーンでもソロリサイタルを開催。近年では歌曲『野ばら』の研究者として注目を浴び、演奏の他、講演、企画も行っている。ヨーロッパを中心に、未発見とされる20曲の『野ばら』の楽譜収集に成功し、ニュース番組の特集やNHK『ラジオ深夜便』、日本経済新聞、毎日新聞などに取り上げられた。2018年には(公財)朝日新聞文化財団からの助成により「音楽劇コンサート『野ばら』の約束」を公演し好評を博した。CD-BOX及び楽譜集「『野ばら』111曲集」を出版。野ばらプロジェクト・エグゼクティブプロデューサー。  
<http://nobara-project.com/>

#### 明治学院バッハ・アカデミー合唱団

明治学院バッハ・アカデミーは、バッハ没後250年を記念して2000年に設立された。芸術監督は樋口隆一。白金の明治学院チャペルを本拠に、2010年まで年間6回の定期演奏会を行ってきた。《マタイ受難曲》(初期稿)のCDは国際的にも注目を集め、それが2006年、ライブツィヒ国際バッハ音楽祭出演へとつながった。合唱団は、明治学院関係者にとどまらず東京周辺在住のバッハ好きたちによって結成され、毎週月曜の夜、島崎藤村も学んだ明治学院記念館で、樋口隆一の指導で練習を重ねている。ポリフォニーの魅力を生かした清澄な合唱は高く評価されており、2011・12年、サントリーホール・フェスティバルにおける「ウィーン音楽散歩 I・II」に出演。2013年11月、ベルリンのコンツェルトハウスでの日独合同合唱演奏会「日本の響き・ドイツの響き」、ブリュッセルの王室礼拝堂でのバッハ《マニフィカト》出演で国際的評価を得た。サントリーホールでは、2014年10月、バッハ《ミサ曲イ短調》、2016年3月、バッハ《マタイ受難曲》、6月、フォーレ《レクイエム》、2017年10月ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》ほか、紀尾井ホールでは、2018年6月、2019年8月の2回のバッハ・カンタータ演奏会、2022年3月バッハ《ヨハネ受難曲》第IV稿演奏会と自主公演を重ね、それらのライブCDも高い評価を得ている。(指揮・樋口隆一、発声指導・岡田愛、伴奏・栗島和子)

#### N響団友オーケストラ

長年NHK交響楽団で活躍してきたプレーヤーたち(N響団友)を軸に、現役メンバーやその他のプレーヤーも含めて編成された管弦楽団。今回のコンサートマスターは永峰高志。